

第388 昭和の森自然観察会

タネのひみつ

梅宮玲子（市原市）

日 時：2024年11月10日（日）10時から12時 天気：曇り

参加者：7名（大人4名、子ども3名）指導員5名他1名

担当指導員：玉川・梅宮

やや肌寒い曇り空のもと「タネのひみつ」の観察会が実施されました。東屋のテーブルに準備したいろいろな種に、興味深々。触ったり、ドングリゴマで遊んだり・・・参加者が7人だけなので、人数が揃ったら班分けせずに種の秘密を探しにスタート。

東屋脇のケヤキから種探し。種は葉がついた小枝ごと落ちていて、空に放り上げると葉がクルクルと舞い風散布。葉の大きさの違いは、種付きの小さい葉は翼の代わりで、大きいのは光合成担当。冒険広場ではハンノキ、ハクウンボク、クヌギなどの実を観察。だんだん暖かくなってきたせいなのか、蛇を見つけて子どもたちは大喜び。指導員に蛇の捕まえ方を教わって満面の笑み。階段を登る途中、ドングリの芽が在り、どこから芽が出るか見せようと引っ張ったけれど、しっかり根づいていて、引っこ抜くのはあきらめました。そのまま林縁をまわり、メタセコイアの実を探す。あちこち落ちていて実を拾うとパラパラと種が地面に散らばりました。

細い藪の道でヤブミョウガの実。鳥に美味しそうな青い実にみせてだまして運ばせる。つぶすとブロック状の角ばった種が・・・その側ではイノコヅチがなぜつくか、説明している指導員の服にすでにイノコヅチがびっしり。サルトリイバラの葉に似たシオデの実も観察。さらに進むとヤマノイモが目の高さに見て下さいといわんばかりに、ぶら下がっている。どこに種があるのかな？と、質問してみるとムカゴを種と思っていた人多し。種とムカゴの違いをみる。

イロハモミジの種がどのように飛ぶか実験。放るとクルクルと風に舞い落ちる。ガマズミの実がたわわになっていたので、希望者は味見してもらう。酸味はあるけれどなかなか美味。また、沢山あるロウバイの実を開けてもらうとゴキブリの糞のような種。大きなユリノキでは、開きかけた実を手に取ると松かさ状になっていて、バラバラと地面に落ちました。梅林ではカリンの黄色い実が落ちていて手に取ると良い香り。最後に展望台で参加者に感想を聞くと、鳥がだまされる話が面白かった。初めて来たけれど、ゆっくり見れた。蛇が見れて良かったなど。



東屋にある沢山の種に興味深々



ヒバカリを捕まえられて嬉しい！